

# 事業報告書

平成 29 年度版





# ～平成 29 年度の主な事業計画～

社会福祉法人 未来こどもランド

## 社会福祉事業

### 第二種社会福祉事業

保育所 練馬区立石神井町つつじ保育園

保育所 練馬区立光が丘第十保育園

放課後児童健全育成事業 未来こどもランド学童保育

地域子育て支援拠点事業 子育てのひろば すまいる石神井

地域子育て支援拠点事業 子育てのひろば すまいる高野台

障害児通所支援事業 放課後等デイサービスすまいる・ステップ

障害児通所支援事業 児童発達支援すまいる・キッズ

障害児通所支援事業 放課後等デイサービスすまいる・ツリー

障害児相談支援・特定相談支援事業 未来こどもランドすまいる相談支援室

障害福祉サービス事業 就労継続支援 B 型すまいる・フォレスト

地域社会貢献事業 「みんなのカフェ」すまいる・ヴィヴィファイ

## ◆法人◆

### 1) 概 略

- 法人名 社会福祉法人未来こどもランド
- 所在地 東京都練馬区谷原5-22-2 MKLビル
- 代表理事 栗原三津子
- 設立認可年月日 平成26年4月8日
- 法人登記年月日 平成26年4月8日

### 2) 理事、監事、評議員

今年度の理事（6名）、評議員（7名）、監事（2名）は次の通り

理事長 栗原三津子

理事 桂久美子 岩瀬秀明 平山晴一 鈴木真 東江福江

評議員 相澤 愛 平田美穂 田中哲子 村上環 遠藤由美子 長島庫子 石井孝弘

監事 田淵順三 船越敏万

### 3) 理事会の開催状況と主な決議事項

◇平成 29 年 6 月 16 日◇

- ・ 社会福祉法人法改正に伴う新役員の承認・決議
- ・ 議長の選任
- ・ H28 年度決算の承認決議
- ・ H29 年度事業計画の承認決議
- ・ 社会福祉法人充実計画の承認決議

◇平成 29 年 10 月 26 日◇

- ・ 新規規程及び就業規則の追記・変更の承認決議
- ・ 新規手当の承認決議
- ・ 社会貢献事業についての承認決議

◇平成 30 年 2 月 22 日◇

- ・ 定款変更の承認決議
- ・ 新規規程及び就業規則の追記・変更の承認決議

◇平成 30 年 4 月 10 日◇

- ・ 補正予算案の承認決議
- ・ 平成 30 年度予算案の承認決議

## 平成29年度 事業報告書

1 受託事業者名 社会福祉法人未来こどもランド石神井町つつじ保育園

2 受託開始年月日 18年平成4月1日

### 3 全体概況

正規職員1名と非常勤職員1名が退職し、2名の新入職員を迎えた。新しい職員が馴染めるよう各職種から新人研修を実施し、各クラスでOJTを実施した。日々の保育の振り返りをしながら保護者対応を学び、行事の係を経験しながら、つつじ保育園への理解が進むようになってきた。2度の育成面談では笑顔が見られ、一年を通して園全体の暖かな新人の受け入れが緊張感を和らげている。園全体として風通しを良くしようと職員の努力の甲斐もあり、情報共有と全体会でのコミュニケーションが進んできている。

今年度は個別ネットワーク会議に関わる家庭が5世帯あり、情報を共有し支援を開始した。前半は母子ともに新しい環境を考慮し相談回数を増やした。母親の考えに傾聴しつつ、保育園の方針を伝えることができた。気持ちの変化の大きい母親とは、同じ保育士がコミュニケーションを密にとることで安心感と信頼が生まれてきた。卒園式後に個別ネットワーク会議が開かれたが、情報を式の前に受け取っていれば、母親の精神状態を悪化させずに済んだのではないかと就学間際に悔いが残った。次年度は積極的にネットワーク会議のメンバーと関わっていく姿勢で臨みたい。

年間行事は一部、10月の長雨の天候により芋ほりが出来なかったが、他は保護者の協力と理解を得て、予定通り実施することができた。大きな行事ではアンケートを実施しているが保護者からのクレームはなく、保育の理解が進み、共に子育てをしている風土が作られてきている。保育参加の保護者が80世帯を超えたことも影響していると思われる。

小学校との連携も進み、2月～3月にかけて小学校側から積極的なアプローチがあり、保育指導要録を始め、一人ひとりの状況を伝えることができた。

4月より定員118名から5名の定員増(2歳児クラス2名、1歳児クラス3名の5名)をし、定員123名でスタートした。2歳児クラスは前半、2つのグループに分けて生活をし、夏休み登園数の減った頃から1つの集団を経験し、秋頃より22名の集団の生活に慣れていき年明けには、プレ幼児クラスとして順調な集団生活を送ることが出来た。1歳児クラスは高月齢児12名と低月齢児9名の二つのグループに分けて保育を実施した。各グループに定数より多い3名の担任を配置した。大人の出入りに不安を感じるこの年齢では6名の保育士の中で休務保障や両方の雑用をするための配置数であった。保育がスタートすると低月齢では3名の保育士が必要になり、さらに高月齢グループ担当保育士の病欠があった。そのため、2つのグループの雑用のために担任以外にスーパー非常勤を配置した。2歳児クラスに向けて2月～3月に2つのグループの交流をしながら子どもへの情報を共有してきた。

年度初めより30年経っている空調関係の工事の話があった。工事をせざるを得ない状況があるものの、工事開始に伴って、行事の変更や保育室の移動など子どもや保護者への負担が予想された。そのため運営委員会や、園だより、保護者会などを通じて、保護者に理解と協力を得られるよう努力を重ねてきた。年度末の4歳の保護者会では一番影響を受けるクラスであるが特に質問や意見はなかった。

危機管理プロジェクトおよび体制表に載せたヒヤリハットでは職員の意識を高く維持している。事故件数は減る状況ではなかったが、保護者の安心のため通院件数は28年度と比べると横ばい状況であった。誤飲、誤食事故はなかったが骨折事故が2件あった。より遊ばせ方に配慮をようすることが次年度への課題となった。

#### 4 保護者会等実施状況

	保護者会	保育参観（参加）	個人面談	その他 （ ）
0歳	4/3・5/9 2/24	毎週水曜日	随時	水曜日以外も実施
1歳	4/17 2/24	毎週水曜日	随時	〃
2歳	4/18 2/24	毎週水曜日	随時	〃
3歳	4/20 3/1	毎週水曜日	随時	〃
4歳	4/21 3/2	毎週水曜日	随時	〃
5歳	4/28 1/19	毎週水曜日	随時	〃

#### 5 運営委員会等開催実績

	開催日	時間	会場
第1回	10/28	18:30～	石神井町つつじ保育園ホール

#### 6 障害児保育

年長児1名が石神井特別支援学校に就学した。5歳児A・4歳児B・2歳児Cの3名の統合保育がスタートした。Cはネットワーク会議にて子ども家庭支援センター・保健所・ぴよぴよのメンバーが集合し情報を共有し母親を支えていくことになった。Cの母親の要望もあり、小茂根の療育センターとったりこに母親と一緒にCの様子を見ながら、母親との信頼関係を作っていた。Cは双子であるが、二人の自我がぶつかり、母親には手が負えなくなり、顔に痣が見られた時は、児相と子センから見にきてもらった。年度末には、母親から働きたいとの申し出があったが、母親の精神状態と子育てを見た場合、勧められないと園長の考えを述べると取り下げた。AとBはクラス内で友達の近くや中に入って活動を共にすることが増え、言葉も一年で巧みになった。練馬発達支援センターに定期的に通い、順調にすごすことが出来た。Aの母親と家庭内の課題を話し、父親が夏祭り頃より顔を出すようになり、父母の態度がAに伝わり卒園まで頑張る力になっ

ていった。Bの母親は要求が高く、結果を性急に求めるため、父母との間で摩擦が起きていた。父親から話しを聞きながら励ますとともにBへの対応を両親に伝えた。年度末になって、Bが順調に伸びていることをまだ母親が不服に思っていることや、父親のうつ病が悪化し、Bへの態度が暴力的になってきていることが新年度の課題となっている。

## 7 地域との連携

(1) 地域との交流事業実施状況（子育て支援、ふれあい交流、家庭福祉員児童への給食サービスなど）

月	事業名	事業内容	参加者数
4月	つつじっこクラブ	交地域流事業・ふれあい給食	17
5月	つつじっこクラブ	交地域流事業・ふれあい給食	98
6月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	67
7月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	53
8月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	0
9月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	36
10月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	70
11月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	192
12月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	105
1月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	38
2月	つつじっこクラブ	地域交流事業・ふれあい給食	140
3月			

## 8 給食（アレルギー対応や安全、衛生管理について）

入園前の情報に基づき、面接時に栄養士や看護師が保護者より詳しく聞き、医師の診断によるアレルギー除去指示書をもらい、3月中に非常勤職員を含む全職員で園児のアレルギーの状況を共有した。看護師より、新人職員へアレルギー症状の対応など全般についての研修を実施した。今年度も副園長と看護師、新人を中心に危機管理プロジェクトチームを作り、ヒヤリハットの用紙に記入された案件を中心に対策を考え、他職員がいつでも見ることが出来るように、体制表のトップに案件と対策を書いたものを置くようにした。非常勤職員にも見てもらう仕組みとした。看護師に提出される用紙の減少傾向が出てきた時は、全体会議で注意喚起をした。重大事故に繋がりそうな案件は全体会議で原因と対策を園全体で共有した。職員の連携で誤食事故には至らなかった。

衛生管理については衛生管理表に基づき、日々チェックを行い、安全で安心な給食づくりを徹底した。また配膳する保育者や非常勤職員も身支度をマニュアル通りに徹底し、配膳時も衛生面に気を付けていくようにした。食事時の園児の嘔吐物がかかった食器の始末については、マニュアルに従って消毒をした。また床などの嘔吐物の始末についても、流行する前に全職員で処理の仕方を復習することで、慌てずに素早く対応できた。非常勤職員の入れ替わりの際には漏れることなく看護師が指導にあたった。電解水を使っての消毒が根付いてきた。

## 9 園児の健康管理

### (1) 実施状況

	実施の有無		実施の有無
健康診断（春・秋）	有	歯科保健指導 （講演会、歯磨き指導等）	有
0歳児回診（月1回以上）	有		
歯科健康診断（春・秋）	有		
ぎょう虫卵検査（春・秋）	有		

## 10 感染症等への対応

新入職員には看護婦より研修を行い、実際の嘔吐物や下痢などの処理のしかたを実践できるように個別指導をした。また感染症が流行る前に全体会議で、実際に嘔吐物の処理方法を実演し、職員によく理解できるように研修を実施した。さらに感染症の情報の収集を行い、職員・保護者にもタイムリーに情報提供を行ってきた。園児には手洗いやうがいなどの健康指導を看護師が行い、園児にも予防についてわかりやすく伝えた。職員トイレには通年、プッシュ式の液体洗剤を置いた。また玄関には通年、手指の消毒液を置き、保護者に利用して頂いた。インフルエンザに罹患する園児が12月から始まり、1月下旬から2月がピークで4月初旬になっても罹る園児がいた。感染拡大を防ぐために早番や遅番をクラス別にするなどの初動対応を敏速に行い、大人も子どもも全員が咳エチケットとしてマスクを着用した。大きくなったね会では、流行を防ぎ全員出席で行うことが出来た。

## 11 個人情報

就業規則に個人情報保護法に基づく法令の順守を定め、採用時に研修をした。また年度初めの職員会議では、個人情報の管理の徹底を伝え、基本的に事務所からの持ち出しを禁止していることを伝えた。書庫から児童票・カメラを持ち出す際には、使用者の氏名と借入日時と返却日時を書くようにした。返却日時の無記入についてはその日のうちに所在を確認し記入を徹底した。カメラは必ず事務所に忘れずに返却することは、昨年より徹底してきたので、揃うようになった。情報セキュリティについては、区からのチェック表を全職員に実施した。意識を持って仕事をしていることがわかった。保護者には、個人情報の利用目的について入園説明会や保護者会で説明し同意書を全世帯から得た。保護者による卒園アルバム制作は保護者間でのやり取りで作製され、問題はなかった。

各規定の設定（有りの場合は○、無い場合は×）

情報公開に関する規定 （仕様書15に定めた内容として）	○
情報セキュリティポリシーの規定 （情報システムを用いる場合に、仕様書14の9に定めた内容として）	○



## 平成 29 年度 石神井町つつじ保育園 振り返り報告書

### 【 職員・その他 】

正規職員 1 名と非常勤職員 1 名が退職し、2 名の新入職員を迎えた。新しい職員が馴染めるよう各職種から新人研修を実施し、各クラスで OJT を実施した。日々の保育の振り返りをしながら保護者対応を学び、行事の係を経験しながら、つつじ保育園への理解が進むようになってきた。2 度の育成面談では笑顔が見られ、一年を通して園全体の暖かな新人の受け入れが緊張感を和らげている。園全体として風通しを良くしようと職員の努力の甲斐もあり、情報共有と全体会でのコミュニケーションが進んできている。

### 【 年間行事 】

年間行事は一部、10 月の長雨の天候により芋ほりが出来なかったが、他は保護者の協力と理解を得て、予定通り実施することができた。大きな行事ではアンケートを実施しているが保護者からのクレームはなく、保育の理解が進み、共に子育てをしている風土が作られてきている。保育参加の保護者が 80 世帯を超えたことも影響していると思われる。

小学校との連携も進み、2 月～3 月にかけて小学校側から積極的なアプローチがあり、保育指導要録を始め、一人ひとりの状況を伝えることができた。

### 【 児 童 】

4 月より定員 118 名から 5 名の定員増（2 歳児クラス 2 名、1 歳児クラス 3 名の 5 名）をし、定員 123 名でスタートした。2 歳児クラスは前半、2 つのグループに分けて生活をし、夏休み登園数の減った頃から 1 つの集団を経験し、秋頃より 22 名の集団の生活に慣れていき年明けには、プレ幼児クラスとして順調な集団生活を送ることが出来た。1 歳児クラスは高月齢児 12 名と低月齢児 9 名の二つのグループに分けて保育を実施した。各グループに定数より多い 3 名の担任を配置した。大人の出入りに不安を感じるこの年齢では 6 名の保育士の中で休務保障や両方の雑用をするための配置数であった。保育がスタートすると低月齢では 3 名の保育士が必要になり、さらに高月齢グループ担当保育士の病欠があった。そのため、2 つのグループの雑用のために担任以外にスーパー非常勤を配置した。2 歳児クラスに向けて 2 月～3 月に 2 つのグループの交流をしながら子どもへの情報を共有してきた。

### 【 特記事項 】

年度初めより 30 年経っている空調関係の工事の話があった。工事をせざるを得ない状況があるものの、工事開始に伴って、行事の変更や保育室の移動など子どもや保護者への負担が予想された。そのため運営委員会や、園だより、保護者会などを通じて、保護者に理解と協力を得られるよう努力を重ねてきた。年度末の 4 歳の保護者会では一番影響を受けるクラスであるが特に質問や意見はなかった。

### 【 リスク管理について 】

危機管理プロジェクトおよび体制表に載せたヒヤリハットでは職員の意識を高く維持している。事故件数は減る状況ではなかったが、保護者の安心のため通院件数は 28 年度と比べると横ばい状況であった。誤飲、誤食事故はなかったが骨折事故が 2 件あった。より遊ばせ方に配慮をようすることが次年度への課題となった。

## 平成 29 年度 光が丘第十保育事業報告書

1 受託事業者名 光が丘第十保育 2 受託開始年月日 平成 25 年 4 月 1 日

## 3 全体概況

保育士との信頼関係を基に、一人ひとりの子どもが主体的な活動ができるように年度の初め保育計画に基づき、年間指導計画を作成し全体で確認した。また、子どもの状況や季節の変化に合わせ、月の指導計画をたて全体で確認し、月末の会議では、各クラスの状況や、困っていること、その事について意見やアドバイスを全職員で話し合い、意見を出し合うことにより、職員全員の保育の質を高め、子ども達に向き合うことを目指してきた。

安全管理について、災害に備えて避難訓練、防災訓練、不審者訓練を定期的実施し、職員、子どもの意識を高めてきた。また、各クラスではヒヤリハットの記録を行い、全職員で検証する時間を持ち、大きな事故に繋がらないように記録の見直しも行った。午睡時には、SIDS の取り組みとして、0 歳児はうつ伏せ寝にしないことを徹底し、5 分おき、1, 2 歳児は 10 分おき、幼児クラスは 15 分おきに午睡チェックを、タイマーも活用し異常の早期発見に努めた。

保育環境については特に保育園生活が長時間になってきていることから、家庭的でゆったりできるような空間を作り、温かい安らぎのある雰囲気大切にしながら、子どもの発達に合わせた遊具やコーナーを設定し、安心して過ごせるようにしてきた。また、地域の高齢者デイサービスを訪問したり、近隣の保育園とドッチボール大会等を通じ交流し、就学に向け、人と関わる力や思いやる心を大切に育ててきた。

職員の資質向上では区の研修、法人研修に加え全職員で学べる園内研修を 3 回行い、皆が同じ気持ちで保育に向かうことが出来るようにしてきた。

4 職員構成 様式 1 のとおり

5 年間行事実施状況 様式 2 のとおり

6 保護者との連携

(1) 各たよりの発行状況

名称	発行回数
園だより	毎月、随時 年 12 回 ( )

保健だより	毎月、随時 年 12 回 ( )
えいようだより	毎月、随時 年 12 回 ( )
クラスだより	毎月、随時 年 12 回 ( )
行事の取り組み	毎月、随時 年 回 ( )
	毎月、随時 年 回 ( )

(2) 保護者会等実施状況

	保護者会	保育参観(参加)	個人面談	その他 ( )
0歳	29/5/9 30/3/7	10名	9名	
1歳	29/5/10 30/3/6	10名	10名	
2歳	29/4/25 30/3/5	20名	20名	
3歳	29/4/26 30/3/2	20名	20名	
4歳	29/4/27 30/3/1	14名	14名	
5歳	29/4/28 30/1/19	17名	17名	

7 運営委員会等開催実績

	開催日	時間	会場
第1回	29/10/27	18:30~	
第2回			
第3回			
第4回			

## 8 障害児保育

3名の障害児を受け入れている。一人ひとりの障害の状況や発達に合わせて保護者と共に育て、専門機関での話し合いに、保護者の同意を受けて参加する中で関わり方を学ぶことが出来た。3歳児の障害児に対して、歩行に向けて向けて必要なこと、援助の仕方、園で生活する上でのポイント等を保護者と共に聞くことが出来たことが良い方向に向き、装具をつけて歩行できるようになり、また食事も自分で口に運ぼうとする意欲に繋がってきている。1歳児の障害児について、区の巡回指導で学んだことを生かし食具を検討している。また4歳児クラスの気になる子について、子の様子を見てもらい、支援センターでの結果をもとに保護者と話し合いを繰り返し、認定してもらうことが出来た。今後も、一人ひとりの行動特徴や発達を丁寧に観察し、巡回指導での助言を基に、保護者と共有しながら支援していく。

## 9 職員研修 様式3のとおり

## 10 特別保育 様式4のとおり

## 11 地域との連携

(1) 地域との交流事業実施状況（子育て支援、ふれあい交流、家庭福祉員児童への給食サービスなど）

月	事業名	事業内容	参加者数
4月			
5月	地域交流	起震車の体験をしよう	8名
6月	地域交流	リズムで遊ぼう	14名
7月	地域交流	七夕コンサート	26名
8月			
9月	地域交流	リズムで遊ぼう	13名
10月	地域交流	運動会に参加しよう	5人
11月	地域交流	園庭で遊ぼう（雨のため中止）	
12月	地域交流	わくわくお楽しみ会	15名
1月	地域交流	新年お楽しみ会	5名
2月	地域交流	（節分）豆まきをしよう	0名
3月			

12 給食（アレルギー対応や安全、衛生管理について）

アレルギー児 5 名については指示書に基づき、アレルギー除去食を実施した。職員間でのアレルギー会議を徹底し行い、トレイにのせたプレートには、名前、除去食品について明記、カウンターから出すときには間違いのないように声をかけ合い確認を行った。家庭と十分な連携のもと、代替食を工夫し、保護者の安心感にも繋がるように配慮した。衛生管理については衛生管理表に基づき、日々チェックし安心安全な給食づくりをめざした。

13 園児の健康管理

(1) 実施状況について

	実施の有無		実施の有無
健康診断（春・秋）	有	歯科保健指導 （講演会、歯磨き指導等）	有
0 歳児回診（月 1 回以上）	有		
歯科健康診断（春・秋）	有		
ぎょう虫卵検査（春・秋）	有		

(2) 感染症等への対応について

区の感染症マニュアルを全職員で確認し、感染予防に務めた。また、感染症の情報収集を行い、保護者に情報提供を行い、感染の拡大を防いだ。インフルエンザの予防接種は全職員受け、園児には手洗いうがいなどの健康指導を行うと共に、罹患児が出たくらすは、クラス全員マスク着用し予防に務めた。

14 個人情報（個人情報の適正な取り扱いや研修の実施などについてご記入願います）

就業規則で個人情報保護法に基づく遵守が定められており、採用時には研修を実施している。保護者には、入園説明会や保護者会で説明し、個人情報の利用目的について承諾書を提出してもらっている、職員会議では、個人情報の管理について事例検討するなどし、管理について徹底している。

各規定の設定（有りの場合は○、無い場合は×）

情報公開に関する規定 （仕様書 15 に定めた内容として）	○
情報セキュリティポリシーの規定 （情報システムを用いる場合に、仕様書 14 の 9 に定めた内容として）	○

## 平成 29 年度 事業報告書

1 事業者名 社会福祉法人未来こどもランド すまいる・ベリー保育園

2 事業開始年月日 平成 27 年 4 月 1 日

### 3 全体概況

29 年度より B 型から A 型になり、正規職員が 2 名から 3 名配置となった。また、半日で 2～3 日出勤の非常勤職員 2 名が常勤職員となったことで、保育中の職員の入れ替わりが多少減り、前年度より、子どもたちが安定して過ごすことができた。

但し、A 型になったことで、保育人員は全員保育士でなければならぬことが後から分かり、保育士資格のない職員が保育人員になっていたことや、常勤職員の急な休み（病欠など）が多かったことなどの理由から、職員体制を整えることが難しい時期もあったが、全職員で協力しあって業務を進めることができた。

29 年度は、夕方に散歩へ出かけたり、公園で遊ぶことが多かった分、子どもの怪我が多かったので、その対策として夕方の遊ぶ時間を見直したり、30 年度に向けて「散歩の注意事項」を作成し職員全員に周知するようにした。

利用定員は練馬区から、待機児解消のための増員依頼を受け、2 歳児は 8 名、1 歳児は 9 名、0 歳児は 4 名、全クラスで 21 名定員でスタートした。また、前年度の途中から朝夕の延長保育料金を徴収しないことになったことで、全体的に保育時間が延び、送迎の時間が 9 時と 17 時に集中することがなくなった。その為、受け渡しコーナーを狭くし、定員が増えたこともあり、子どもが遊べるスペースを多く確保し、子どもたちがじっくり遊び込めるよう環境を整えた。可動式の柵で受け入れコーナーと遊びコーナーを分けることで保護者の出入りが前年度より目立たなくなり、子どもたちが落ち着いて過ごすことができた。また、転園や途中入園が多かったにもかかわらず、子どもたちが安定して過ごすことができていたのは、研修等による保育者自身のスキルアップの成果だと感じることもできた。

正規職員には、それぞれに適した外部研修を受けてもらい、学んできたことを非常勤職員も含めた全職員に伝える為に、職員間での園内研修を行った。研修は保育士のスキルアップに繋がり、保育士の子どもに対する関わり方が良くなり、その結果、子どもたちが伸び伸びと成長し、安定した生活ができるようになった。

保護者参加の行事では、今年度から、あそぼう会を上石神井中学校を借りて行った。体育館で行うのは初めてだったが、子どもたちも保護者も喜んで参加することができ、楽しかったという感想が多く聞かれた。その他の行事は、ほぼ計画通り実施できた。

また、法人内連携として、石神井町つつじ保育園の看護師には、ほけんだよりや園児の健康面や怪我等の相談。管理栄養士には栄養便り、献立表などの提供を受けるなど、より良い保育につながっている。

地域交流に関しては、近隣の方や散歩先で出会う方々にこちらから気持ちよく挨拶

をするよう心がけ、公園へ持っていく玩具などを一般のお子さんにも貸すなどして一緒に遊べるよう働きかけていった。

職員の労働環境面では、できるだけ残業を減らし、正規職員は土曜日に出勤したら、振替休日を必ず取れるようにした。非常勤職員は、週40時間労働制に応じた体制を組むことができた。(但し調理師は事務局と話し合った上で、週40時間を超えてしまうことがあった。) 今後も全職員がやりがいを感じ、働きやすい職場になるよう努力していきたい。

#### 4 保護者会等実施状況

- ・保護者会 5月27日(土) 0歳児、1歳児、2歳児 クラス別で実施
- ・個人面談 10月中に保護者のお迎えの時間帯やその他保護者の都合に合わせて実施した。

#### 5 地域との連携

- ・地域交流・地域子育て支援

項目	実施内容	実施回数 参加者数
地域交流	クッキー作り (近隣の方へ日頃の感謝を込めてクッキーをお届けする)	6軒 (2歳児のみ)
地域子育て支援	保育所体験	6回
地域子育て支援	出産を迎える親の体験学習	6回
地域子育て支援	小中学生の育児体験受け入れ	10回

## 6 給食（アレルギー対応や安全、衛生管理について）

1歳児クラスにアレルギー除去食（卵、米）の児童が1名。2歳児クラスに、アレルギー除去食（卵、ピーナッツ）の児童が1名。入園前の情報に基づき、園長が保護者から聞きとりをして、医師の診断によるアレルギー除去食指示書を受取り、非常勤職員を含む全職員で対象児のアレルギー状況を共有した。また、すまいる・ベリー保育園のマニュアルを作成し、誤食を起こさないよう全職員に周知徹底した。

衛生管理については、衛生管理表に基づき、日々チェックを行い、安全で安心な給食づくりを徹底した。また配膳する保育者や非常勤職員も身支度をマニュアル通りに徹底し、配膳時も衛生面に気を付けていくようにした。食事中の園児の嘔吐物がかかった食器の始末については、マニュアルに従って消毒をした。また床などの嘔吐物の始末についても、研修で全職員に処理の仕方を伝えておいたので、慌てずに対応することができた。

## 7 園児の健康管理

	実施の有無
健康診断（春・秋）	有
身体測定（月1回）	有

## 8 感染症等への対応

4月3日に行い、実際の嘔吐物や下痢などの処理のしかたを実践できるように、実際に嘔吐物の処理方法を実演し、職員によく理解できるよう研修を実施した。また、練馬区からの感染症情報を、職員・保護者にも伝えてきた。園児には、日々の生活の中で手洗いやうがいなどの大切さを分かりやすく伝えてきた。職員トイレには通年、プッシュ式の液体洗剤を置いた。また、全員プッシュ式で除菌作用のある手洗い石鹸を使用し、各手洗い場と玄関には通年、手指の消毒液を置き、保護者にも利用して頂いた。

また、世間では感染症が流行っていた時期に、丁寧な手洗いと玩具、棚、床などの消毒を徹底したことで、嘔吐下痢やインフルエンザに罹患する園児が少なく、園内で一斉に流行ることがなかった。また、体調が完全に回復しない状態で登園してしまうことのないよう、「感染症予防と感染症拡大防止の為のお願い」の手紙を事前に保護者に配布し、協力と理解を求めたことも良い結果となった。

## 9 個人情報

就業規則に個人情報保護法に基づく法令の順守を定め、採用時に書面で確認している。児童票など保育書類等・カメラは鍵のかかる場所に保管するようにした。（カメラは必ず事務所に忘れずに返却することを徹底した）保護者には、個人情報の利用目的について入園説明会や保護者会で説明し同意書を全世帯から得た。保護者に対しては、ネットでの写真を流出するなど、個人情報を公開することのないようお願いした。



# 障害児通所事業

## 平成 29 年度 放課後等デイサービスすまいる・ステップ事業報告書

利用定員 1日10名

利用契約者数 30名

職員人数 7名

児童発達支援管理責任者（保育士）1名 保育士2名 児童指導員 2名 指導員2名

### 利用実績表（実際に利用した人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期合計
実績数	208名	216名	230名	206名	184名	216名	1,260名
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
実績数	215名	229名	215名	194名	215名	227名	2,555名

### 利用者数の確保に関して

- ・安定した運営が行われるよう定期予約だけでなく欠席者が入った場合のスポット利用への働きかけを積極的に行っていった。また30年度より、すまいる・ステップ：小学部/すまいる・ツリー：中学1年生～高校3年生と学年分けを行うための準備期間の一年間とした。活動内容の精査、小学校低学年と高学年ふたつのグループ活動にスムーズに移行できるよう療育や日々のプログラムの工夫を行った。また送迎の範囲が限定されることが見込まれるため、ルートの見直しを前倒しして行った。
- ・待機登録者の開始時期の変更し幼稚園年長から待機登録を可能とした所、待機登録者が増えた。

### 年間計画

- ・夏休みに板橋教育科学館に行き、一日保育を行った。
- ・すまいる・ツリーとすまいる・ステップの合同イベントを夏休み・冬休みに行った。

### 前年度の課題について

- ・個別支援計画のフォーマットを記入しやすく伝わりやすい形に変更した。
- ・施設内の環境整備についてはマットを取り入れ、運動しやすい環境ができた。  
また、小学校低学年用の小さいテーブルを導入し、体の小さい児童達も使いやすくなった。
- ・利用者の学校、自宅に基づき送迎ルートの見直しを随時行っている。
- ・職員の移動などあり配置に変更があったため、引き続き時間をかけて役割分担と各自のスキルアップにも力を入れていきたい。

# 平成 29 年度 放課後等デイサービス すまいる・ツリー事業報告

利用定員 1日10名

利用契約者数 31名

待機登録者数 1名

職員人数 8名

児童発達支援管理責任者（保育士）1名 保育士2名 児童指導員 2名 指導員3名

## 利用実績表（実際に利用した人数）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	半期合計
実績数	230名	222名	242名	230名	220名	233名	1,231名
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
実績数	226名	222名	210名	213名	227名	245名	2,720名

## 日々の活動

- グループワーク ゲームなどをしながら他者意識の向上を図る  
トランプ・カルタ・すごろく・机上のゲーム・脳トレなど
- 音楽 馴染みのある曲に合わせて楽器を演奏したりダンスを楽しむ  
年間を通してドレミの歌の曲をハンドベルで演奏した
- 買い物 実際に近所のスーパーやコンビニを利用して、公共のマナーを学ぶ
- おやつ作り 季節の簡単なおやつを作り、達成感や偏食に働きかける  
お月見団子・ピザ・かき氷・かぼちやの蒸しパン・チョコパイ
- 運動 バランスディスク、ハードル、フープなどを使い、楽しく体を動かす  
ラジオ体操、ストレッチをして整理運動をした。
- 避難訓練 年6回実施。火災時と地震時に備え、ヘルメットを被り避難経路を知る
- 工作 ハサミやのりなどを使用し、母の日のプレゼントや写真たて、  
七夕飾り、刺しゅう、紙漉き、ランタン作り

## 今後の課題

障害への理解を深め、一人ひとりにあった支援を目指す。

個別の支援とグループでの支援を織り交ぜながら、1日1日の成長を目指す。

## 放課後児童健全育成事業

### 平成 29 年度 未来こどもランド学童保育 事業報告

◆定期利用児童 12 名

◆一時預かり枠登録者（定期スポット、単発スポットを含めて） 30 名

◆対象児童 小学 1 年生～小学 6 年生

日々、アットホームな保育を心がけており保護者との連絡や連携を密に持つよう心掛けている。子ども達の心の安定、日々の健康に留意して学校生活、宿題、遊びとメリハリのある生活ができるよう職員も気を配って保育をしている。今年も夏休み、冬休みの長期休み利用者は多かったが、定期利用の児童数が減少しているのが気にかかる。

年間行事としてはバス遠足、卒所制作の陶芸教室など継続して行った。卒業遠足は相模湖トレジャーフォレストへバス遠足を行い、楽しい思い出となった。

子どもの遊びから発展した催し、つつじ保育園との合同縁日等もとても充実した活動となっている。引き続き、子供たちの心と体の安定を軸とした楽しく安全な学童生活を過ごせるよう努力していく。また、定期利用者の減少については法人全体の課題として取り組んでいく。

## 地域子育て支援拠点事業

### 民設子育ての広場 すまいる石神井 事業報告

◇開催曜日： 月・火・木

◇公園遊び：水曜日

◇開催時間：10 時～15 時

学童の子供たちが作った手芸品や工作での縁日ごっこ、つつじ保育園年長児童も参加し大にぎわいでたのしい交流イベントが行えた。また広場合同イベントでは「音を楽しむコンサート」を行い、本格的なクラシックに触れられるコンサートをとってたくさんの反響をいただいた。

広場で定期開催の「おたのしみタイム」、秋の「ミニミニ運動会」・高野台と合同の「クリスマス会」などを行い、石神井地域の子育て世代の皆さんに楽しい時間を提供できたと思う。

今年度も育児中のお母さんたちの息抜きの場、楽しみの場、ママ仲間を作る場所として安全で楽しい空間を提供していきたい。

一時預かり事業は前年度と同様、シーズンでのニーズに偏りがあるが必要とされている実感があり、引き続き継続していきたい。

# 民設子育ての広場 すまいる高野台 事業報告

◇開催曜日： 月・木・金

◇公園遊び：水曜日

◇開催時間：10時～15時

すまいる・高野台では登録者総数は2000名に届き、週3回の開催日には平均15～20組の親子が日々利用し、午前中から午後にかけて長時間利用者も多くなった。

定期的に行われているお楽しみ会では、パネルシアターを中心にたくさんの演目を用意し、利用者親子が飽きないように工夫をした。また季節に関連したパネルシアターをやることで日本独自の季節感を感じてもらえたと思う。

歯科講座を定期的におこなっており、乳児の口内衛生についてお母さんたちとの質疑応答コーナーなど日頃の悩みに手が届く講座として人気がある。小児救急ミニ講座ではよしかわ子供クリニックの先生にきていただき、幼い子供の体調管理などのお話をしてもらい大変参考になったというフィードバックをもらった。

また広場合同イベントの「音を楽しむコンサート」には高野台からもたくさんの親子が参加した。石神井施設の利用者との交流も図れ、とても良いイベントになった。

今後もリトミックなど合同イベントを行っていきたい。

## 指定特定相談支援事業・障害児相談支援事業

### 未来こどもランドすまいる相談支援室

利用契約者数 平成29年3月末日現在 188名

職員人数 管理者・相談支援専門員：1名 事務：1名

#### 活動内容

定期的に保護者の方と面接を行いお子さんの今の状況を聞き、利用したい希望のサービス内容を盛り込んだサービス計画案を作成し、他にも必要な場合には情報提供を行ってきた。

半年に1回の継続利用者へのモニタリングでは、サービス計画が各事業所での確に遂行されているか確認をしながら新たなニーズがないかをポイントにモニタリング報告書を作成するように心がけている。

また次年度も引き続き、利用者のニーズだけではなく何が必要かを見極め、適切な計画書を作成していきたいと思う。

# 障害福祉サービス事業

## 平成 29 年度 就労継続支援 B 型 すまいる・フォレスト事業報告書

**事業目的** 利用者が日々笑顔で毎日を過ごせるように、働く生活を通じて、自立に必要な「生活力・仕事力・余暇力」の知識や技術を育成し、「社会力」を身に付ける事で「自己実現」を目指す。また、集団生活を通じてコミュニケーション能力の向上を図ると共にルールやマナーを身に着ける事で「協調性」を養っていく。

**利用定員** 1 日 2 0 名

**利用契約者数** 4 名 (H30 年 3 月現在)

**待機登録者数** 0 名

**職員人数** 4 名

- ・管理者（施設長）1 名 ・サービス管理責任者（保育士）1 名
- ・目標工賃達成指導員（作業療法士）1 名 ・支援員（非常勤職員）1 名

**利用実績表** (平成 2 8 年度実際に利用した延べ人数)

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	半期合計
実績数	59 名	55 名	63 名	56 名	52 名	57 名	342 名
月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年間合計
実績数	50 名	53 名	52 名	51 名	54 名	58 名	318 名

※練馬区内の福祉事務所（4 か所）、特別支援学校等に募集のお願いやポスター、パンフレット配布等を行い、見学、実習等を随時受け入れている。

### 作業・活動

\*週間での取り組み

- ・受注作業（クロネコ DM 便・S 字フック封入作業・計量作業・ふちとり作業  
フラワーベース作業等）
- ・生産作業（絞り染エコバック・ノート、手帳各種・くるみボタン製品等）

\*月間の取り組み

- ・受注作業（短期納期 2 点封入作業等）
- ・販売会出店（ハッピースマイルフェスタ年 7 回・ねりいち等）

- ・余暇活動（歓迎会・販売店見学・新年会・都内散策等）
- ・身体測定（体重、血圧）
- \*3カ月毎の取り組み
  - ・作業評価表の作成、利用者面談、個人カンファレンス実施
  - ・避難訓練（不定期、無連絡にて実施）
- \*6カ月毎の取り組み
  - ・個別支援計画書作成・工賃検討会議・個人ケース会・家族会（9月、2月）等
- \*年間の取組
  - ・法人内保育園の入園児用バック、卒園児用コサージュ等の制作販売

作業・活動、また製作品などを通じて様々な人々との利用者とのつながりを実感できるよう事業所内だけでなく、販売会やカフェなどで自分たちの作ったものがどのように売られ、どんな人たちに購入してもらっているか課外の取り組みを心掛けた。

受注作業については、定期的に発注されるものを増やし、作業効率と工賃アップを心がけた。



#### 今年度の課題と結果

- \*利用者確保…練馬特別支援学校を始め、各都内の支援学校からの見学、実習を積極的に受け入れてきた、また各福祉事務所等からの受け入れも随時呼び掛けていたところ、50歳代の利用者が一名入所した。今後も幅広くよびかけていきたい。
- \*受注作業… 現在行っている3つの作業が主だっただけではなかったが、クロネコDM便は範囲拡充と作業の日数を検討し日数と人数を調整したうえで活動を行った。利用者の身体的軽減にもつながり、他の活動が潤滑になった。  
新規の受注作業を取り入れ、効率の悪い作業については辞めるという判断をした。
- \*生産作業… 時間内で出来る製品を優先順位順に制作していく調整を細やかに行った結果、製作品の厳選が出来た。販路がくるみるショップにも取り扱いをしていただけるようになり、利用者の自信につながったと思う。毎万円ほどの月コンスタントな売り上げが続いている。生産効率を上げて、様々な販路を開拓する努力を

し、いくつかの販売販路を獲得することができた。引き続き、今後もすまいる vivify、法人内の保育園、学童等で期間移動展示販売を実施していきたい。

\*余暇活動… 事業所以外で場所へ外出することによるの余暇が、利用者の気分転換にもなり、気持ちの充実につながることを実感した。引き続き活動内容が家庭生活や今後の仕事に繋がる内容を主に実施した。来年度は高尾山への登山を筆頭に様々な事を実施しながら確立していきたい。また、新たな活動として、社会人マナーなど人間力アップ活動を取り入れていくことが検討され、来年度より実施することになった。

\*年間行事… 一泊旅行の実施については今後の課題として準備期間とした。

まとめ… 2年目を迎え、利用者4名各自で日常の生活の積み重ねと、日々、月、年間で反省・改善を繰り返す事で充実した施設内容を目指している。  
工賃アップを目指し、工賃規程の見直しを行い、各個人の時給を設定することにした。東京都平均工賃を目指し、まずは1万円台に乗せていきたい。  
受注作業と生産作業をバランスよく、行い、仕事への充実感ややりがいに繋がるようにしていきたい。実習生や見学者が増えるように、特別支援学校の就労担当の先生と連携をとり、今後につなげている。また、見学者についてはレインボーワークや福祉事務所、他施設との連携で数名来たいいただいたことより、今後も連r系をとり、利用者海保に努めていく。  
来年度春より新卒生の利用者が増えることを踏まえ、次年度計画を立てていきたい。

## 地域貢献事業

みんなのカフェ すまいる・VIVIFY

営業日 金・土・日（10時～16時半）

月～木は レンタルスペースとして

実施内容

食事メニュー ランチセット、ワッフルセット

隣のピーターパン（パン屋）とカシュカシュ（ケーキ屋）の商品（飲み物以外）の持ち込みを可とする。  
パンは温めサービスを実施、ケーキもお皿とフォークを提供する。

ランチセットは隔週で2種類用意

石神井商店街のイベントに参加（カレー週間・ハロウィン週間・猫フェス週間）

\*カレー週間のカレーセット（欧風カレー&ターメリックライス、ポテトサラダ、ヨーグルトのリンゴシナモン添え）



\*ワッフルセット

売り上げは金曜日 5000 円、土曜日 15000 円、日曜日 20000 円が平均。

石神井公園のイベントなどがあると来店客は増加した。

土日はボランティア演奏者を募り、チェロ、ハーモニカ、オカリナなどのミニ演奏を実施  
就労支援施設の利用者のカフェ店員体験を定期的の実施した。

#### イベントの実施

クリスマスミニコンサートを 12/23 に実施。地域の演奏者（バイオリン、チェロ、トランペット）をお願いをした。

イベントを定期的の実施し、カフェを知ってもらうとともに来客数を増やしていきたい。



#### レンタルスペースの実施

- ・レンタルボックス アクセサリー
- ・ブース席 アイシングクッキー講座 フラワーアレンジメント講座
- ・俳句の句会



#### 来年度の課題

来客数を増やすための工夫や、値段を安くして集客を狙う。(料金設定を3月より100円引きとした)  
音楽演奏のイベントを積極的にアピールし、参加してもらい演奏者を増やしていく。

レンタルスペースの利用も知ってもらい活用できるようにしていきたい。

就労継続支援 B 型 すまいる・フォレストとの連携も考えていく。(利用者の就労体験としての店員研修)

生産品を置き、来店客に施設を知ってもらい障害者の工賃アップに貢献している商品ということも併せてわかるような展示とする。